

# 風

神戸大学 広報誌 [kaze]  
Kobe University Public Relations Magazine  
Jul.2014 Vol.03

特集  
ヨーロッパの風に帆を上げる神戸大学  
EUとKOBEBEの連携で次世代の国際人を育成





湊川神社  
神戸市中央区多聞通



## 「有馬街道」を訪ねて

神戸市中央区と兵庫区の境を縫って南北に走るのが有馬街道だ。瀬戸内海側と裏六甲の有馬を結ぶ道は大きく3本。尼崎から宝塚・小浜宿を経て谷間を有馬に辿るルート、深江浜を起点とする魚屋（ととや）道、そして有馬街道となる。このあたりになると六甲山系も山並みが低くなる。街道の平野交差点から北を臨むと道は緩やかにうねって山間を縫い高度を上げる。交差点から南が町中の街道となる。昭和の匂いが漂う下町。シャッターの降りた商店が連なり、裏路地には崩れかかったアパート。人通りがない。街道に戻りまっすぐ南に歩く。中央分離帯には楠が茂る。街路樹に楠は珍しい。街道沿いの薬局の屋号も、仕出し屋も「クスノキ」だらけだ。それもそのはず、近くの湊川神社には南北朝時代の忠臣、楠木正成公がまつられる。境内に足を踏み入れる。社殿背後を楠の森が抱え込むようにそびえて、深い緑が覆い、大都会の真ん中とは思えない別天地を作る。広い境内の静寂を時折、参拝客の拍手が破る。境内を出て東西に延びる多聞通を辿ると街道との交差点信号機に唯一「有馬道」と記したプレートが揺れていた。

神戸大学周辺に散在する魅力的な建物や道を迎えるエッセーを連載します。



表紙写真：神戸大学附属病院での支援ロボット「ダヴィンチ」を使っでの手術

藤澤正人院長による右腎腫瘍ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術。ダヴィンチは内視鏡下でロボットアームの先に鉗子やメスを装着して、組織の保持や切開・縫合などの手術を行う機器です。モニター画像を見ながらコントローラを操作すると、術者の手や手首の動きを縮小して、体腔内に挿入した専用の器具や処置具の先端に伝えることができるので、微細な手術が可能です。

カメラ 有限会社フロイネッツ

特集1

# ヨーロッパの風 に帆を上げる 神戸大学

EUとKOBEEの連携で次世代の国際人を育成

伝統的にグローバル志向が強く、  
さまざまな国際交流に取り組んでいる神戸大学だが、  
なかでもEU（欧州連合）とは特別ともいえる関係を築いている。  
ヨーロッパと神戸が距離を越えて呼応する、  
パートナーシップの新たな展開をご紹介します。

# 六甲の夜空に12の星が輝く

## ヨーロッパを志向する神戸大学が次にめざすもの

神戸大学とEUの「特別な関係」は、関西学院大学、大阪大学とともにEU-J 関西を設立し、その幹事校となったことに始まる。その後、神戸大学はEUの拠点であるベルギーのブリュッセルにオフィスを構え、学内にEU総合学術センターを設置するなど、独自の連携強化に取り組んできた。そして、昨年10月には日欧連携教育府を開設、より多くの学生をヨーロッパに送り出そうとしている。今回は、この4月に始まったEUエキスパート人材養成プログラム（KUPE S）を中心に、「ヨーロッパを学ぶ」「ヨーロッパで学ぶ」意味と課題を、日欧連携教育府長の萩原泰治先生にうかがった。

### 議論を尽くした国際化

— さっそくですが、なぜヨーロッパなのでしょうが。

ひとつは、対等な立場で国際的な教育を受けられることです。EUにはエラスムス計画という、各国の学生がおたがいに移動しあうプログラムがあり、EU以外の国からも多くの学生が来ています。そのほとんどがの学生にとって、英語は第二言語な

んです。一生懸命に勉強した英語で、講義を受けたり議論したりしているわけです。

多様な価値観があるのもヨーロッパの魅力です。いろいろな人がいて、いろいろな考え方があ。許容範囲が広いという気がします。EUは28か国の連合体で、それぞれの国が主張すべきは主張し、妥協すべきは妥協してものごとを決めています。そのプロセスを学ぶことができるのも

大きいですね。高齢化をはじめとして日本とヨーロッパはよく似た問題を抱えていますから、比較研究ができるテーマも多いと思います。

それと、神戸大学の社会科学系は地域研究が盛んです。世界中のほとんどの地域をカバーしていますが、なかでもヨーロッパに強い教員が多いですね。2005年にEU-IJがスタートしたことで、欧州委員会のパロゾ委員長や、「EU大統領」とよばれる欧州理事会のフアンロンパイ議長が訪日時に神戸大学を訪れ、関係が深まっていたことも背景にあります。

— 港町神戸の高等商業学校がルーツですから、海外志向はもともと強いですよ。

最近はそうでもなかったという反省があるんです。昔は「神戸大学を





interviewee

## 萩原 泰治

HAGIWARA Taiji

日欧連携教育府長・経済学研究科教授

神戸大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科博士後期課程退学。神戸大学経済経営研究所助手、経済学部講師、助教授、教授。サセックス大学客員研究員、マンチェスター大学客員研究員を歴任。EUインスティテュート関西の元副代表。2013年より現職。専門は現代技術論、産業連関分析。

出たら商社に行くでしょ」と思われていたほどで、私が学生のときも商社に就職する友達がたくさんいました。ところが気づいてみると、商社を選ぶ学生が激減していたんです。英語の授業も昔より少なくなっていて、学生も大学も国内志向になってきた。このままではいけない、何かを変えなければいけないと、だいぶ長いこと議論しました。国際化に向けて大きく舵を切ろうとみんなで合意し、学生を積極的に海外に送り出すようになったのが4、5年前のことです。

——国内志向では限界がある？

先が開けないんです。日本には1

億2000万以上の人間がいますから、国内だけの商売でも成り立っていました。でも、その人口はだんだん減っていきます。国内だけでは成長を見込めない時代が、すでに来ているわけです。国内市場が縮小すればするほど、海外で活躍できる人材が必要になりますよね。

学術の面でも、国内だけでやって

いけると思っている人はあまりいないはず。理系は昔から英語で論文を書くのが当たり前でしたが、最近は人文系や社会科学系でも、国際的なジャーナルにオリジナリティーのある論文を載せないと評価されないようになってきました。

### 本気の留学をサポート

——KUPESは日欧2つの修士号、ダブルディグリーをめざすプログラムだそうですが、学部の段階でも留学するんですね。

2回生の前期からKUPESの授業を始めて、3回生の後期に半年ないし1年の単位互換留学があります。1期生は20人ですが、ひとつの協定大学に行けるのは多くて3人。学生の希望もさまざまですから、できるだけバラエティーをもたせるように協定を増やしているところです。この留学で「やっていける」と思ったら、大学院への進学を積極的に考えてくれると思うんですね。

——必ず進学するわけではない？

私たちとしては全員が進学してダブルディグリーを取ってほしいと思っていますが、新撰組みたいに「抜けることは許さん」とは言いません(笑)。最初の留学で「やっぱり向いてない」と思う学生がいるかもしれませんし、社会科学系の学生が就職活動をしないうちに、大学院に行くというの、それなりに決断を要することです。もし別の進路をめざすとしても、それはそれでいい。KUPESで学んだことは必ず役立つと思うんですね。EU-IJのようにKUPESの学部修了証も出す予定です。

### EU×KOBEのシクミ [1]

#### 2つの修士号取得を強力支援 神戸大学日欧連携教育府

<http://www.ejce.kobe-u.ac.jp>

2013年10月、国際文化学部・法学部・経済学部と各研究科の連携・協力組織として設立。EUの教育連携プログラムICI-ECPに採択されたダブルディグリー・プロジェクトEU-JAMMと、学部2回生からダブルディグリー取得をめざすKUPESを実施している。



#### 日・EU間学際的前端教育プログラム(EU-JAMM)

神戸大学が代表校となり、九州大学・大阪大学・奈良女子大学とコンソーシアムを結成、EU側の6大学と連携して、博士課程前期課程の大学院生がダブルディグリー取得をめざす教育プログラム。2013年からの4年間で、EUから20人、日本から23人の学生が相互に派遣される。

#### EUエキスパート人材養成プログラム(KUPES)

EUに関する広い学際的視野と深い識見を涵養するため、学部2回生から博士課程前期課程までの一貫した体系的カリキュラムを日本語と英語で提供。学部で半年ないし1年間、博士課程前期課程で1年間の留学を含む。EU流の講義に慣れるため、4年間で16人の非常勤教員を招聘する。本特集で詳しく紹介。

# EU × Kobe Univ.

— EU—JAMMもダブルディグリープログラムですね。

はい。去年の8月に採択されて、神戸大学から留学する最初の学生も決まりました。EU—JAMMは、大学院生交換の枠組みであると同時に奨学金プログラムでもあるんです。日本の4大学から23人というのは奨学金の枠なんです。でも、いまKUPEESに参加している2回生が大学院に進んでダブルディグリー留学をするとき、現在のEU—JAMMは終わっています。交換の枠組み、つまり協定大学の関係は続けていくことになるでしょうが、奨学金については「新EU—JAMM」を開拓しなければなりません。

— 素朴な疑問ですが、なぜ留学が必要なのでしょう。

実際の社会は、現地に行ってみないとわからないんです。同じような問題に対して、なぜ日本とEUがちがう答えを出したのか、統計データを見るだけでは理解できません。よく「体感する」と言いますよね。現地で暮らして、人々がどう行動しているかを知ることが欠かせないんです。ずっと日本にいると日本の常識が絶対だと思いついてしまいがちで、それをさまざまな角度から見ることで相対化できるというメリットもありますね。

英語で何を言えばいい？

— KUPEESの授業にはどういう目的があるのでしょうか。

留学中も日本と同じレベルで教育を受けられる、その能力をつけることです。現在、ヨーロッパから3人の先生に来ていただいています。これまでにもいろいろな先生を招いて授業をしてもらいました。その先生方から共通して言われたのが、日本の学生はまじめに話を聞くけれども、レスポンスがなくて受け身だと。私たち日本人は、黙って、よく聞いて、よく理解するのが、教育を受ける者のとるべき立場だと刷り込まれているんですよ。でもヨーロッパでは、どんなに偉い先生に対しても「それはおかしい」と言える学生が評価されます。日本の留学生はどうかというところ、そういうディスカッションには加わらず、ひたすら吸収している（笑）。試験をすると「わかっているじゃないか」となるんですけどね。3人の先生には、自分の意見を表明して議論できる学生に育ててほしいなと思っています。

— そこがいちばん難しいのかもしれないですね。

発信する中身があれば、話が下手でも聞いてくれるはず。その中身は自分で考えるしかない。発信す

## EU × KOBEのシクミ [2]

### EUを学ぶ・知る・広める EUインスティテュート関西(EUIJ関西)

<http://euij-kansai.jp>



EU Institute in Japan, Kansai

2005年4月、EUの行政府である欧州委員会の資金援助を得て、神戸大学・関西学院大学・大阪大学によるコンソーシアムとして設立。現在はこ

の3大学に加えて、京都大学経済研究所・関西大学・和歌山大学・香川大学経済学部・奈良女子大学が協定校として参加している。第3期(2013年4月～2016年3月)の現在は、(1)EUに関する教育・学術研究拠点、(2)EUに関する情報収集および発信拠点、(3)EU普及活動の拠点として、シンポジウム、ワークショップ、セミナーなど幅広い活動を展開している。

#### EU研究修了証プログラム

3大学共通で開講される「EU科目」を履修し、研究論文を提出した学部学生・大学院生に、EUIJ関西が独自の修了証(サーティフィケート)を授与するプログラム。同様のプログラムは国内外にあるが、世界的に見ても最大級の規模で実施している。

るだけなら「日本ではこうだよ」くらいは言えるでしょうし、そのためにも日本のことをきちんと知っておいたほうがいいです。だけど、それは結局、知ってるか知らないかの話ですよ。大切なのは、自分で考えた自分の意見をどれくらい出せるかです。

— そのための語学力も必要ですね。

若いから英語の能力は必ず上がる、それを信じて、がんばって勉強しましょうと言っています（笑）。

2012年からは、大学の費用負担で全学部の全学生がTOEFLあるいはTOEICを受験できるようにになりました。KUPEESの授業はもちろん英語ですし、大学院では英語

だけで修士号を取れるコースも開いています。

ただ、母国語で高等教育を受けられるのも大事なことです。大学では英語で書かれたテキストを使わざるをえないという国もあって、そのほうが英語をおぼえるにはいいかもしれませんが、ふだん使わない言語で専門分野、特に社会科学を学んで、ちゃんと理解できるのかという問題があります。同僚の先生方と話しているのは、学部は基本的に日本語で学び、大学院で英語化するのがいいのかなど。そのなかでKUPEESの学生は、学部でも他の学生より英語の比重が大きいという点になります。

# KUPESの現場で見た、先生の工夫と学生の意欲



左は、KUPESの全学生20人と留学生10人が出席する「日欧比較セミナー」の講義風景。開講から間もないせいか、進んで発言するのは留学生だけで、日本の学生は先生の問いかけに答える程度。小グループでのディスカッションが始まったとき、この講義を毎回見守っている高城宏行先生が小声で解説してくれた。

「私が留学して最初にぶつかった壁も、話に入れないことでした。それが苦痛で、授業が嫌になることもあります。だから、このセミナーでは

とにかく慣れろと。ある意味では荒療治。留学生が次々に発言するのを目の当たりにしてショックを受けるかもしれませんが、それも経験です」

3回生前期までの1年半で堂々と発言できるようにしなければ……なるほど、壁を恐れずに留学できますね。

「そう思います(笑)」

なかなか発言できないのは織り込み済み。留学でぶつかるさまざまな壁を、先に乗り越えておくための講義なのだ。学生たちも、壁を越えていく意欲を語ってくれた。



田中 裕一郎 TANAKA Yuichiro  
法学部 2回生

英語が好きで、国際的なことにも興味があるので、おもしろそうだと思って申し込みました。留学生のように授業の途中で質問するのは難しいですね。そういう癖がもともとないな、と(笑)。この授業では、英語そのものより英語という手段で何を伝えるかを、しっかり勉強する必要があると感じています。グループで話していても、知らないことが多いんですね。もっと柔軟に議論できるように、知識をつけたいと思います。



廣畑 友紀 HIROHATA Yuki  
法学部 2回生

興味があるのは労働政策。そのきっかけになったのがオランダの事例で、日欧の比較ができればいいなと思っていたとき、このプログラムのことを知りました。英語だけでなく専門的な知識もまだまだ足りないと思わせてくれるのが、この授業のいいところですね(笑)。いつも友達と「わからなかったな」と言いながら帰んですが、それで落ち込むのではなく「やるぞ!」という感じ。モチベーションはすごく上がっています。



上嶋 友也 UEJIMA Tomoya  
国際文化学部 2回生

入学当初から、学部のもうひとつ上に行こう、海外の修士をめざそうという思いがあったんです。すごく大変だという話は聞いていたんですが、大学をあげてサポートしてくれるというのでこのプログラムに参加しました。学部ごとの講義形式の授業もあって、興味のある内容ですし、先生と学生が意見を出しあうことができるので、それもいい刺激になっています。大学には、英語で教える授業をもっと増やしてほしいですね(笑)。



鴨志田 遼一 KAMOSHIDA Ryoichi  
経済学部 2回生

私はギリシアの財政危機がきっかけでヨーロッパ経済に興味をもち、経済学部に入ったんです。このプログラムに申し込んだのも、自分が学びたいことと一致していたから。授業に出るようになって、自分の英語力はまだ足りないと感じています。日本語なら言えるのに、英語が出てこない。で、1時間後ぐらいに「こう言えばよかったな」と(笑)。これから英語力をどんどん上げて、留学生のように積極的に発言したいと思っています。



ミリアム・ブイ Miriam BUI  
国際文化学部 2回生

私はドイツから来ました。将来はヨーロッパか日本の会社で働きたいと思っているので、この授業は本当におもしろいです。慣れているのは日本語より英語。経済や法律の専門的な言葉も、話を聞いているうちに意味がわかってきます。こういう授業形式、私にとってはむしろ普通です(笑)。日本人の学生が緊張しているのはちょっと残念。みんないい考えをもっているのでもっとたくさん発言してほしいですね。

# 特命教員トークセッション

日欧連携教育府特命講師(経済学部担当)

ドイツ出身。ユーロマスター(英バース大学、米ワシントン大学、パリ政治学院)で現代ヨーロッパ学修士、文部科学省研究生(東京大学)、オックスフォード大学博士課程在籍中(歴史学)。LEOX Summer School Oxford(留学生向け英語サマースクール)を創設。専門は環境政策、地域ガバナンス、日欧政策比較など。



アンナ・シュラーデ

Anna SCHRADE

日欧連携教育府特命准教授(国際文化学部担当)

ドイツ出身。ドレスデン工科大学(文化行政修士)、International Graduate School Zittau(政治学博士)。ドレスデン国際映画祭プロジェクトマネージャー、ザクソン文化基金研究所リサーチフェロー、ブランデンブルグ州欧州メディア政策アドバイザーなどを歴任。専門は欧州文化行政、文化政策。



ウラディミール・クレック

Vladimir KRECK



高城 宏行

TAKAGI Hiroyuki



ミケーラ・リミニヌッチ

Michela RIMINUCCI

日欧連携教育府特命准教授(アカデミックコーディネーター)

レディング大学(教育組織・計画・管理修士)、ロンドン大学教育研究所(教育学博士)。キングストン大学とロンドン大学で各種プロジェクトに関わる。International Cross-cultural Committee UK留学コンサルタント、UK-Japan Learning Netの共同創設者および理事。専門は高等教育の国際化、日英比較教育など。

日欧連携教育府特命講師(法学部担当)

イタリア出身。ヴェネツィア大学東アジア語学学士。ミラノ・ボッコーニ大学法学学士・修士。職歴は和伊翻訳者、ミラノ・Latham & Watkins パラリーガル、法律専門雑誌 Bocconi Legal Papers 編集長、ラヴェンナ伊日交流協会委員など。専門は法学(法制史、比較法、国際法、労働法、EU法、環境法、商法、産業財産権法)、語学(イタリア語、英語、日本語)。

神戸大学の学生はどうですか？

**リミニヌッチ** イタリアの学生より熱心。みんな積極的に質問しますね。

**シュラーデ** うん、すごく教えやすい。頭はいいけど堅苦しくなくて、ジヨークも言ってくれる。

**クレック** みんな賢くてまじめなんだけど、クリティカル、批判的な意見はあまり言いませんね。そこがヨーロッパの学生とちがうかもしれない。

**シュラーデ** むこうの学生は「先生、私はそう思いません」とはっきり言うけど、こっちの学生は反対しませんよね。

**リミニヌッチ** できるだけ慣れてないという感じ。

**高城** ヨーロッパでは小学校くらいから、自分の意見を自信をもって言わせるという教育をしますからね。そういう経験のない日本の学生にとっては、なかなか大変だと思います。しかも英語ですから。  
**シュラーデ** 彼らは英語にあまり自信がないんです。間違ってもいいから、自信をもって言うほうがいいんですけど。

**クレック** 間違えないように話そうとするから、自信がないと話すこと自体をやめてしまう、みたいなところがありますね。

**シュラーデ** サマースクールでイギリスに来る日本人学生は、たった2週間ですごく明るくなるんです。いろんな人に声をかけたり、交流を楽しんだり。日本人って、じつはそんなにシャイじゃない(笑)。

**KUPESで学んでほしいん**

**リミニヌッチ** 私は法律を教えているので、ヨーロッパのシステムがどのようになっているかですね。たとえば、EU法はとても難しく、ヨーロッパ人にとってもわかりにくい(笑)。私の学生には、ヨーロッパに留学したときすぐ理解できるようになつてほしいと思っています。

**シュラーデ** 日本人はよく「それは正しい」「それはちがう」と言うんですけど、その中間ですね。「それは正しいけど、こういう意見もある」とか、「そうしてもいいけど、こうしたほうがいいかもしれない」とか。黒白だけじゃなく、いろんなことがあることをわかってほしい。

**クレック** ひとことで「EU」と言っても、それぞれの国に独自の文化、伝統、言語があります。そういう多様性や異文化を理解するための、カルチュラル・アウェアネスを習得してほしい。

**シュラーデ** ヨーロッパのほうが異文化には慣れてますよね。車で3時



EU×KOBEのシクミ [3]

日欧連携で地球規模の課題に挑む

EU総合学術センター  
神戸大学ブリュッセルオフィス (KUBEC)

2010年9月、EUの本部機能が集中するブリュッセルに、日本の大学として初めて現地オフィスを開設。現在は、神戸大学国際交流推進機構に設置されたEU総合学術センターに属する。神戸との遠隔会議システムを備えており、講義への活用も計画中。シンポジウム、ワークショップなど年間を通じて数多くのイベントを開催するほか、欧州神戸大学同窓会の拠点にもなっている。



日EUイノベーション・科学・技術  
協力強化プロジェクト (JEUPISTE)

EU第7次研究開発枠組計画 (FP7) の国際協力促進プログラムとして設置された、科学技術における二極間パートナーシップ強化開発事業 (BILAT) のひとつ。神戸大学は、コーディネーターの日欧産業協力センターを除く唯一の日本側機関として参加。2013年9月から3年間にわたって、パートナーシップ形成支援などの活動を行う。担当はEU総合学術センター。キックオフ会議はブリュッセルオフィスで開催された。

間も走るとちがう国ですし、私がい  
たオックスフォード大学は院生の3  
分の2が外国人。どこに行ってもい  
ろいろな文化が混ざっていて、毎日  
交流していますから。  
**高城** 多様性を知る、異文化を理解  
するというスキルは、国内でも必要  
になると思います。日本人もどんど  
ん多様化していますし、国や文化が  
異なる人と一緒に働くことも増えて  
いくでしょう。そこでリーダーシッ  
プを発揮したり、もちろん海外にも  
出ていける人材になってもらいた  
いですね。

神戸からヨーロッパへ、世界へ

域です。未来への変化を続ける  
ヨーロッパを学ぶなら、日本にお  
いては神戸大学がベストと言っ  
ていいでしょう。  
**シユラーデ** 大学に行くのは、日本  
では社会人になるためだけけど、私は  
世界人になるためだと思っていま  
す。EUにかぎらず、世界への扉を  
開けるために。  
**高城** ヨーロッパの人たちと接した  
り、一緒に勉強するなかで、自分の  
可能性を見つけて大きく成長してほ  
しいですね。  
**リミノツチ** 大学って、ゴールでは  
なくてスタートですからね。日本だ  
けでなく、世界へのスタート。  
**シユラーデ** そう。ここで選択の幅  
が広がって、人生が変わるんです。

interview 1-2

がんばる学生のために

再び萩原先生にお話をうかがった。  
―― 授業を拜見しましたが、ヨー  
ロッパ流というだけでなく、非常に  
よく工夫されていますね。

高城先生を含めた特命教員4人の  
提案が大きかったですね。最初は細  
かいデザインまでは決めてなかつた  
んです。ヨーロッパの先生に来ても  
らって、神戸で一年半がんばったら  
単位互換留学を楽しく乗り越えられ  
て、さらに勉強したいという気持ち  
になってほしいなど、それぐらいの  
考えでした。どのように授業を運営  
するか、これまで来ていただいた先  
生方のアドバイスも参考にして骨格  
をつくり、現在の先生方が着任され  
て、そこから本格的に具体化しまし  
たね。まだ改善すべき点はあるかも  
しれませんが、フレキシブルに調整  
できるようにと思っています。

一人で勉強するのは大変なこと  
ですが、あれぐらいの集団であれば、  
はげましあったり刺激を与えあつた  
りして成長していけるのではないかと  
期待しています。学生によって  
は、あの授業で自分の英語力に不安  
を抱くかもしれません。でも、他の

みんなが偉く見えてしまうような時  
期があるんですよ。みんながおた  
がいに、他人のほうがすごいと感じ  
てしまう(笑)。それを乗り越える  
ことで強くなるのかもしれない。  
がんばってほしいと思います。

―― 将来はどうなっていてほしいと考  
えておられますか。

自立して仕事のできる人間になっ  
てほしいですね。自営業という意味  
ではなく、どこに行っても、どの会  
社に入っても活躍できる人。彼ら  
をそのように成長させるのは、ヨー  
ロッパに留学して日本とはちがう環  
境でがんばる、その経験かもしれま  
せん。生まれつきタフな人もいるで  
しょうが、そうではない多くの人  
も、チャレンジし経験を積むこと  
によってタフになるのだと思います。  
KUPESの学生は、そういうチャ  
レンジをいままさに始めたところ  
ですね。



# 手術のビジュアル化で命を救う

3Dプリンターで臓器模型 ホンモノそっくりの質感



interviewee

医学研究科内科学講座特命講師

## 杉本真樹

STIGIMOTO Maki

東京都葛飾区柴又生まれ。1996年帝京大学医学部卒。  
帝京大学 病院外科 米国退役軍人局バロアルト病院を経て  
神戸大学医学研究科内科学講座特命講師。帝京大学客  
員教授、千葉大学客員准教授、群馬大学客員准教授を兼  
任。医用画像処理、医療ICTシステム、手術支援、低侵襲  
内視鏡手術や手術ロボット、3Dプリンターによる生体質  
感造形など最先端医療技術の研究開発により、医学系学  
術会議で学会賞を多数受賞(国際11件、国内8件)。医療  
教育・シミュレーションなどの多分野でプレゼンテーションセ  
ミナーやワークショップを多数開催。

風3号から登場する「研究ズームアップ」  
は特徴ある「とんがった」テーマに取り組  
む研究者に焦点を当て、その思いを聞きま  
す。第一弾は現代医療の革新家とうたわれ  
る医学研究科内科学講座特命講師、杉本真  
樹さん(43)。患者の臓器の位置を確認す  
るためCTで撮影した臓器画像を患者の体  
に投影して手術する手法や、iPadを手  
術室に持ち込んでCTデータから作った立  
体画像を映しながら手術する手法を開発。  
さらには3Dプリンターを使って本物そっ  
くりの触感の臓器模型を制作し、手術の予  
行演習や患者説明に使えるようにしていま  
す。手術そのものをビジュアル化した発想  
のもとを聞きました。



——3Dプリンターを使って臓器模型を作る、その発想はどこから来たのですか。

2006年、北米放射線学会で立体画像を使つての診断、手術について発表した帰りにシカゴの自然史博物館に立ち寄りました。ティアノザウルスの大きい模型があつて、その前に日本のガチャポンみたいな機械が置いてある。コインを入れると型に樹脂を注入して小さな模型が出てきました。帰国前にナポレオンのデスマスクを観る機会があつて、このときに二つのが結びついて、CT画像の輪切りを積み重ねれば立体模型ができるとひらめいたのです。

——そのころはまだ3Dプリンターはありませんよね。

発泡スチロールをハサミで薄切りにして積み重ねて何とか立体模型を作っていました。ずっと3D画像の研究をしていたのですが、スクリーンに投影しても人間の体の凹凸感が出ないので。軟らかい人間の体に投影すると立体感が出る。臓器や血管の位置を投影するプロジェクションマッピングが出来るようになりました。

——そういった土台があつた上に、3Dプリンターが登場するのですか。

20010年6月に3D画像を使つて手術するなど、私の取り組みが新聞の特集で大きく取り上げられました。それを見て、3Dプリンター関連会社「ファソテック」

が医療用画像データを3Dプリンターに落とし込めないかと相談に来たのです。医療用画像の世界標準規格DICOMは点のデータです。3D画像は線、面のデータ。そのままでは互換性がない。私はCTで臓器の画像を撮影して、このデジタルデータをOsirix(オザイリックス)というソフトを使つて立体画像を作っていました。このソフトを使うとDICOMを3Dプリンターのメーカーが使うデータに変換出来ました。

——それで3Dプリンターを使つての臓器模型がスタートしたのですか。

ファソテックはイスラエルの会社と提携して、堅い樹脂、軟らかい樹脂を混ぜ合わせて模型を作る技術を持っています。形だけでなく、触感を再現しないと世界に勝てないと思ひ、2010年夏に透명한樹脂の中に血管が透いて見えて、ハサミで切れる臓器模型を世界で初めて作りました。その後、共同研究を進めて生体の質感を再現する臓器模型を作りだし、今年3月には特許も取りました。

——本物そっくりの臓器模型を作る意味は何ですか。

触感をバーチャルで再現しようとする、高度なセンサーが必要だしソフトを組み上げるのも大変です。それに比べると現在作っている臓器模型は水分を含んでいて、重さも触感も本物そっくり。患者一人



一人のデータに基づいて作るので、超音波検査すると本物と同じデータになります。病巣や血管の位置などを事前に確認でき、手術のときにメスを入れる、電気で焼く、血管を縛るなどの練習ができます。

——3Dプリンターで作る臓器模型は今、どの程度普及していますか。今後の展開は？

神戸大学附属病院の教育や手術で使われていますし、国内40施設で導入済みです。これが進むと移植可能な人工臓器を3Dプリンターで作ることになりますし、その研究を進めている方もいます。CTに映っているものは今のプリンターの精度だと再現できないものはありません。まずは、この模型をもっと普及させて手術のビジュアル化を進めて、もっと多くの命を救いたいですね。

看護師から水先人へ —

# 夢だった自分がここにいる



英語ではパイロット。大阪湾を出入りする1万トン以上の船舶は、水先人の乗船を原則として義務づけられている。船長に代わってほとんどの操船指示を出す水先人は、みずからも船長を経験した、海のベテランだけに許される仕事……だった。

「就活を始めるころ、新卒も水先人になれるように法律が改正されたんです。それを聞いたときは、変な法律になったなー、できるわけないじゃん、と思いました(笑)」

海事科学部で航海士をめざしていた齊藤さんだが、そもそもなぜ？

「私は山形県の内陸部で育ちました。看護師になろうと思っていた高校3年の夏、ちよつと勉強から逃れようと思って、横須賀にある海洋科学技術センター(当時)のサマースクールに参加したんです。調査船に一晚泊まって、航海士の方と話したりしているうちに、船をすぐく身近に感じました。もうそのときに、船乗りになりたいなと」

当然というべきか、ご両親は大反対。しかたなく、医大の看護学科に進学した。

「学校が山梨だったので、静岡の海へ遊びに行ったりするんです。やっぱり海を見ると未

練が出てくる。なんで我慢しなきゃいけないんだろうと思うようになって、3年生のときに受験勉強を始めました」

しかし、統合前の神戸商船大学は不合格。いったん看護師の仕事に就き、翌年、海事科学部に入學した。では、なぜ水先人？

「外航船の船乗りになったとして、いつまで続けられるのか。家庭をもつたらどうするのか。女性である自分の人生を現実的に考えてみたくんです。水先人なら、陸の近くで、ずっと船に乗って仕事ができます。やってみる価値はあるなと思いました」

# 船が好きなら、女性でも大丈夫！



とはいえ、新卒者がすぐ水先人になれるわけではない。海事科学部を卒業した斉藤さんは、半年間の乗船実習科を経て、水先修業生として海事科学研究科に入学した。

「修業生になると養成手当をいただけるんです。それまでは、親の反対を押し切ってやるからにはお金も自分でと考えて、看護師のときに貯めた分と、奨学金と、あとはバイトバイトの毎日。つねにギリギリの生活で、貧乏をきわめていました（笑）」

大学院で2年半の専門教育を受け、修士号を取得した斉藤さんは、2011年、新制度1期生として三級水先人の国家試験に合格、メリケン波止場近くに事務所をかまえる大阪湾水先人区水先人会に入会した。

「最初の1年間は、先輩と一緒に乗船してアドバイスを受けながら経験を積みます。初めてひとり乗船するときは直前までドキドキしていましたが、乗ったら乗ったで覚悟はできていましたね。水先人が不安がってるわけにはいきませんから」

三級水先人が担当できるのは2万トンまでの船だが、長さにすると200メートル近い大型船も含まれる。急カーブも急ブレーキも不可能、大きさも操縦性能も異なるさまざまな船を、混雑する大阪湾で安全に航行させなければならない。さまざまな



水先人を送迎するパイロットボート。航行中の大型船に横付けしたこの船から、最長9メートルの縄ばしごで乗船する。

能力が求められる仕事だが、看護師の経験が生きていることもあるのだろうか。

「たくさんありますね。看護の先生に言われたことですが、どんなに患者さんが多くても、たとえば注射をする5分間は、その方だけの看護師になりなさいと。いまの私も、水先人として乗船したその日は、完全にその船の味方であろう、という気持ちになります。それに、水先人も人の命を守る仕事ですよ。看護師になって命の重さを知ったのは、本当にいい経験でした。あのとき受験に落ちてよかったです（笑）」

明るくポジティブな斉藤さんだが、後悔し

ていることもあるらしい。

「海事科学部のころは、絶対に船乗りになるんだ、引き下がっちゃいけないと、自分をどんだん狭い枠に入れていました。男性社会に溶け込まなきゃ、体力もつけなきゃと、初めて体育会系の部活に入ったり……。でも、それって必要ない感覚だったなど」

現実には男の世界で、体力も必要ですよ。壁を感じることはありませんか？

「男どうしの会話ができたら楽しいんだろうな、ぐらいです（笑）。海外にも女性の水先人がいますし、乗り込んだ船で女性の航海士や機関士に会うこともよくあります。男性にしかできないような力仕事って、船乗りの通常業務にはひとつもないんですよ。男の世界というイメージがすぐに消えることはないでしょうが、私がおばあちゃんになるころには、女性も船で働くのが当たり前になっていてほしいですね」



斉藤 志穂  
SAITO Shihoko

大阪湾水先人区水先人会会員。山形県真室川町生まれ。2008年、海事科学部卒業。2010年、海事科学研究科で修士（海事科学）取得、翌年より現職。日本初の女性水先人となった4人のうちのひとり。

# 学部生・院生・教職員すべてを対象としたサポートプログラム 磨け！英語プレゼン&ライティング力

神戸大学国際コミュニケーションセンターが提供する英語運用支援プログラム「KALCS（カルクス）」。  
開始からの4年間で2000名近い利用者を集める取り組みについて、加藤雅之教授にお話を伺いました。

## — KALCSとは？

通常の授業とは別に実施している、英語によるプレゼンテーション方法や論文の書き方に特化してサポートするプログラムで、卒業生や企業などからの寄付を原資とする「神戸大学基金」の支援を受けて運営しています。個人負担ゼロです。授業はネイティブ講師が受け持ち、もちろん英語で進行。少人数制で、所属、学年を問わず本学の学部生、院生、教職員なら誰でもHPから申し込むことができます。



ライティングセミナー

## — どのような授業を行っているのですか。

主には3つ。「プレゼンセミナー」は、学会発表やビジネスシーンで使える英語でのプレゼン手法を学ぶもので、1クラス4人の構成です。「ライティングセミナー」は、定員は1クラス2人。英文による学術論文などの書き方を学びます。いずれも週に1回、40分間の授業を4回受けてもらい、5回目以前者であれば実際の発表、後者は英文のエッセイを提出してもらって修了です。受講生は学部生、中でも1年生がほとんどですね。

「チュートリアル」は、教員や院生が主な対象で、授業は講師との1対1。英語論文の校正や学会発表プレゼンの個別指導を行っています。1回60分の予約制で、学内全キャンパスへの出張指導や、スカイプによる遠方指導にも対応しています。



# KALCS

## 加藤 雅之

KATO Masayuki

国際コミュニケーションセンター教授  
大学院国際文化学専攻科兼務・  
KALCSプロジェクト委員会委員長

専門分野は英語教育。主要な研究業績に  
2010年「12年ぶりに『とぼりの彼方』を  
読み直す」(Kobe Miscellany, No.32)、  
2012年「パワーポイントのVBA機能を使っ  
た授業活性化の試み」(神戸大学国際コ  
ミュニケーションセンター論集, No.8)、  
2013年フレデリック・ジェイムソン『ア  
ドルノ』(共訳、論創社)などがある。



「**具体的にはどのようなことを?**  
プレゼンとライティングは入門的  
な位置付けであり、それぞれの基礎  
の習得が目的です。プレゼンと言え  
ば、自己紹介に始まり、こちらが用  
意する「読書の重要性」「コン  
ピュータゲームがなぜ体に良くない  
か」といったトピックについて、イ  
ントロダクションから、例の挙げ  
方、結論まで、プレゼンの組み立て  
方のフォーマットを学びます。  
チュートリアルに関しては、論文  
の専門的な内容について指導するの  
ではなく、あくまでも英文としての流れ  
や、論理性の添削などを行います。」

「**なぜ、このようなプログラムを?**

KALCSの開始は平成22年度か  
らですが、それ以前の4年間に、文  
部科学省の現代GPに採択され  
「PEP」という英語のプレゼン指  
導を行っていました。選択制ですが  
KALCSとは異なり単位取得型の  
授業で、非常に好評を得ていたん  
です。採択期間の終了に伴い始まった  
のがKALCS。前身のノウハウを  
活かしながら、より広くプレゼン技  
術をシェアするとともに、PEPで  
はできなかった少人数制の授業で、  
一層きめの細かい指導が可能にな  
りました。」

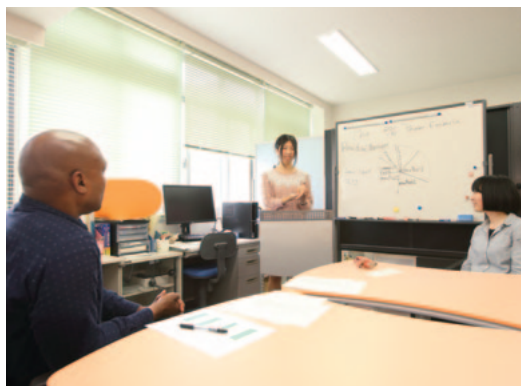
「**受講生の反応はいかがですか。**

受講後のアンケートを見ても、9  
割以上の受講生が「良かった」「役  
に立った」と答えてくれています。  
英語によるプレゼン・ライティング  
技術向上へのニーズは高く、受講者  
は本当に熱心ですね。KALCSは  
通常の授業外のプログラ  
ムであり、応募形式な  
ので目的が明確な受講生が  
多く、意識レベルが高い  
と思います。これを契機  
に海外に留学した学生も  
多くいます。」

「**良いプレゼンとはどんなものだ  
と思われませんか。**

わかりやすいプレゼン、これに尽き  
ますが、常にオーディエンスとの対話  
を心がけることが大切です。話しなが  
ら相手の反応を見て、口調や話の流れ  
を変えられるようになるのが素晴らしい  
プレゼンターと言えるでしょう。で  
も、まずは内容であり、原稿、脚本が  
しっかり書けなければ、臨機応変な対  
応もできません。KALCSではその  
部分を大事にしています。」

そして皆が皆、弁舌爽やかである必  
要はありません。訥々とした話し方で  
も人を感動させることができます。  
KALCSで基礎を磨いて、自分のスタ  
イルを見つけてもらえればと思います。」



プレゼンセミナー

## 受講生の成長を見るのが嬉しいです！ 小林 絵理佳 KOBAYASHI Erica (KALCS 事務補佐員)

申込の受け付けやチラシの作成・配布・掲示、HPの運営、ネイティブ講師と受講生間の調整役など、様々な裏方の仕事を担当しています。受講する学生は心から英語を学びたいと思ってここに来ているので、長く続けてもらえるようにできる限りのサポートを心がけています。まったく面識のない学生同士がほとんどで、英語力によるクラス分けをしているわけでもないの、最初は皆緊張していますが、だんだんと仲良くなり、授業中も助け合いながら頑張っています。

「KUEPCON (ケブコン)」という本学のプレゼンコンテストがあるのですが、受講生が堂々と発表する姿を見ると本当に嬉しくなります。英語力アップの場として、また、交流の場でもあるKALCSに、ぜひ参加してください。」



# 赤崎町の復興を支えたい

## 大船渡支援プロジェクト



3・11東日本大震災の被災地、大船渡市赤崎町の復興支援を目的に、震災直後の2011年4月から始動した「大船渡支援プロジェクト」。現実行委員長である居村成美さんに、活動に関する主な内容や思い、現地の復興状況をうかがった。

「大船渡支援プロジェクト」は、神戸大学の先生方が中心となり始まったボランティア活動です。甚大な被害にあつた大船渡市を震災直後に訪れ、津波の影響で住宅内外に堆積した泥の除去や避難所での炊き出しを行ったそうです。その活動報告や、連日報道される被災地の情報を耳にしていた私は、「自分にも何かできることがあるのでは…」と思い、震災から半年後に行われた2回目の現地での復興支援活動に参加。この回から、プロジェクトは学生を中心に本格的に始動しました。

まずは、仮設住宅の一軒一軒に挨拶をし、自分たちにできることはないか聞いてまわりました。草刈りや換気扇の掃除などのお手伝いを続ける中で、赤崎住民有志の

方々が「赤崎復興隊」を結成。現在では復興隊の皆さんと一緒に支援活動を行っています。例えば被災で亡くなった方を偲ぶ「追悼式」や年中行事の再興、今年6月から始まり、毎月の開催を予定している「復興市」のお手伝いなど、その活動はさまざま。復興隊が未来の赤崎町の姿を考え、イメージをまとめて「赤崎未来予想図」に作り上げるお手伝いをしました。この予想図は追悼式で展示されました。その際、地元の高校生から結成されたのが「復興隊ユース」。未来予想図に関する意見を若者に聞くため、彼らを会議に招いたことがきっかけでした。復興市で地元の方々と一緒に出店をするなど、ユースの皆とも協力して支援活動を行っています。

また、私たちは毎月行う学内外での街頭募金活動にも力を注いでいます。卒業生のメンバーや通行人の方が活動に参加してくださることも。これまでいただいた募金は、私たちが作った仮設住宅の共用ベンチの材料費など、「復興活動支援金」として応急仮設住宅自治会の方々と相談のうえ、使わせていただいています。





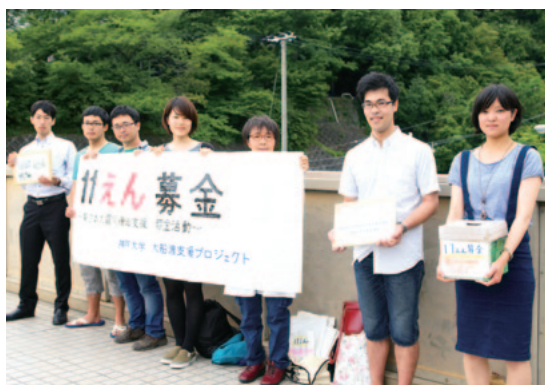


居村 成美 IMURA Narumi  
大船渡支援プロジェクト実行委員長  
発達科学部人間形成学科4年生



活動当初は、「現地の方々を心を開いていただけるだろうか」と不安を感じていました。あいにく天候が悪かった復興市前日、開催準備に携わってくださった現地の方々の士気が下がらないか心配したこともあり。しかし、みなさんは「絶対やろう」と言ってくださり、当日は雨天の中、無事決行することができました。現地の方の中には、私たちが赤崎町から神戸に帰る際、見送りに来てくださる方や、積極的に活動に関わってくださる方も増え、今は親密な関係を築けているように感じます。

震災から3年が経ちました。今も現地の方々と共に、より安全に、安心して暮らせるまちづくりを目指して活動を続けていますが、赤崎町の復興はまだまだ進んでいません。私たちにできることは、現地の方々の思いに寄り添いながら、復興支援活動の継続、復興に向けた新しい活動への取り組み、そして、神戸に住む方々に現地の復興状況を伝えることだと思っています。たとえ現地に行けなくても、募金活動など、神戸でできる支援はあります。私たちの活動に、より多くの方が共感・参加していただけるよう、今後は、現地の写真展示など新しい活動を取り入れた復興支援の取り組みを考えています。



主な活動内容		大船渡支援プロジェクト	
<b>ワークキャンププロジェクト</b> これまでに2011年4月、9月、2012年3月、7月、9月、2013年3月、2014年3月と赤崎町を訪れ、幅広い支援活動を実行。	<b>月一訪問隊活動</b> 2012年6月から月に1回現地を訪れ、継続的、定期的に現地の最新情報を得ることで、復興に向けた新しい活動に繋げている。	<b>11えん募金活動</b> 2011年7月より、毎月11日に実行。1・17の阪神淡路大震災と3・11に共通する「11」を大切な数字として行っている。	<b>赤崎復興隊の支援</b> 「まちづくりワークショップ」のお手伝いや「赤崎未来予想図」の作成など、住民主導の復興を支援している。



# 電子マネーって？

テーマ「電子マネー」



**Q** 消費者側のメリットは？

**A** 何よりも小銭が不要になります。Suicaなど交通系ICカードの相互利用が始まり、汎用性が飛躍的に増大しました。日本は現金の使用頻度が高い国ですが、現金の代わりに電子マネーが使われています。Edyなどは貯めたポイントを電子マネーとしても使えます。



**Q** 企業側のメリットは？

**A** 釣り銭の準備が不要になります。利用できる加盟店が増えると、グループで客を囲い込めます。また、プリペイド式であれば、電子マネーをチャージしてから使用されるまでの期間、資金を運用できるというメリットもあります。



ベトナムとの国際交流に対する副首相兼外務大臣からの表彰状

**Q** 電子マネーの発行企業が倒産したらどうなる？

**A** 電子マネーは商品券（前払い式証憑）と原理は同じです。電子マネーを発行する企業には、「資金決済に関する法律」で、未使用残高（チャージ残額）の半分以上を供託する義務があります。



藤田 誠一

FUJITA Seiichi

理事・副学長 教授(国際金融論)

「専門は貨幣論と国際金融論。若い頃影響を受けた本は、J・M・ケインズ著『貨幣論』、K・マルクス著『資本論』。」

- 1980年 神戸大学大学院経済学研究科 博士課程前期課程 修了
- 神戸大学経済学部 助手
- 1983年 神戸大学経済学部 講師
- 1986年 神戸大学経済学部 助教授
- 1996年 神戸大学経済学部 教授
- 2000年 神戸大学大学院経済学研究科 教授
- 2008年 神戸大学大学院経済学研究科長・経済学部部長（～2010.11.15まで）
- 2013年 神戸大学 理事・副学長



国の登録有形文化財「巖貞堂」(武道場)

**Q** 将来、貨幣はなくなる？

**A** 電子マネーにはSuicaのようなプリペイド式と、PiTaPaのようなクレジットカード式があります。いずれも現金や預金という決済手段が前提です。電子マネー普及で銀行が消えるという論調がありました。目の前の現象だけを捉えていて貨幣論としては間違いです。

**Q** 最後に高校生へメッセージを。

**A** 神戸大学経済学部は、理論と実際をバランスよく学べる最高の環境があります。特にゼミは、少人数でディスカッション中心です。あなたに合ったゼミが必ず見つかりますよ。



広報室員・文字の取材を終えて

学生時代は剣道一筋だったという強者。お酒が大好きで、ゼミも左党の学生が集まるとか。趣味はオペラ。THE・紳士です。

# 今回は、ベトナムからの留学生、 レ・ティ・フェさんら三人に「揚げ春巻き」を 作っていただきました!

昨年秋にベトナムから来日したレ・ティ・フェさん。国際協力研究科で経済学を学ぶ傍ら、週末は農業ボランティアや旅行へと、アクティブに過ごしている。「日本の皆さんにぜひ紹介したい」とルームメートのファン・ティ・フォン・タオさん、料理好きのファン・トゥ・ハーさんを誘って、揚げ春巻きをどっさり作った。

揚げ春巻きは、ベトナム語でネムザン (Nem rán) という。正月や祭りなど家族が集まる時に欠かせない伝統料理だ。特徴は具をライスペーパーで包むこと。春巻きが少し浸かる程度の油で、約15分揚げるとサクッと仕上がる。春雨や野菜がたっぷり入ったヘルシーな揚げ春巻きは淡泊な味わい。魚醤・ヌクナムのつけ汁が濃厚なアクセントになる。エビの代わりにカニ身を使っても美味しい。



ベトナム北部 ハジアン (Ha Giang) にて



### WEB動画も配信中!

神戸大学オフィシャルサイトと連動し、動画で作り方を紹介しています。  
<http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-relations/v/>



## レ・ティ・フェ Le Thi Hue

### 国際協力研究科修士1年

ベトナムの貿易大学卒業。日系企業で勤務後、昨年秋に来日した。研究テーマは「ベトナムの自動車部品産業の発展」。趣味の旅行では、47都道府県をすべて訪れるのが目標。すでに1/4ほど回った。



### 「揚げ春巻き」レシピ

材料 (4人分)

A	豚ミンチ … 400グラム	エビ … 400グラム
	にんじん … 1本	たまねぎ … 1個
	ねぎ … 2~3本	きくらげ … 10枚
	しいたけ … 10枚	
B	ヌクナム(魚醤) … 大さじ1	塩 … 適量
	ごしよう … 適量	卵 … 2個
	春雨(乾燥) … 100グラム	ライスペーパー … 30枚程
	サラダ油 … 適量	チマサンチュ … 適量
	ミントの葉 … 適量	
たれ	ヌクナム … 大さじ6	赤とうがらし(みじん切り) … 大さじ1
	にんにく(みじん切り) … 大さじ1	レモン … 適量
	砂糖 … 大さじ1	ごしよう … 適量
	水 … 30cc	

作り方

- 1 Aをみじん切りにする。春雨は湯で戻し、約3センチに切る。
- 2 A、B、春雨をボウルに混ぜ合わせる
- 3 適量を取りライスペーパーで巻いていく
- 4 小さめの火で約15分揚げる  
ポイント: 油の量は春巻きが少し浸かる程度にし、ひっくり返しながらかける
- 5 チマサンチュ、ミントの葉と一緒に盛りつける  
ポイント: 春巻きを野菜に包んで食べても美味しい!

# 留学生の 自慢の一品

留学生が故郷を代表する自慢の一品を紹介。日本では味わえないような様々な郷土料理を、故郷の文化や習慣などのお話を交えながら調理していただきます。



留学生仲間と楽しいひととき。  
左:Pham Thi Phuong Thao  
(ファン・ティ・フォン・タオ)  
右:Phan Thu Ha  
(ファン・トゥ・ハー)

# バリアフリーは世界平和につながる

Graduate's activity

## 「行かないと分からない」車イスで138カ国旅行

高校3年の春、ラグビー練習中に下敷きになり下半身が不自由になった。車イス生活で一番シヨックだったのは、外出しようとしても「設備がない」「規則がない」と受け入れを断られることだった。神戸大学発達科学部に合格した93年夏、サンフランシスコの語学学校に通ったときに目を開かされた。

街も公共施設もバリアフリー。街行く人も車イスに特別な視線を投げかけることなく、自分に障害があることを忘れた。語学学校でハイキングが企画されたとき、「車イスで行けるか」と質問すると、逆に「あなたは行きたいの？」と問いつ返された。「できる、できない」でなく、「やりたいか、やりたくないか」。周囲に迷惑かけるかなど気にしなくていい、障害なんて気にしなくていい、それは一つの「特徴」なのだというのがアメリカ流だった。

94年8月、ドイツのノイシュバンシュタイン城に行った。麓から馬車で城に登ろうとした。いざ乗り込もうとすると御者が「馬車は途中の道までしか行かないし、城は階段だから乗るだけ無駄」と乗車拒否。ポーランド人のオバチャンが「何で乗せないの」と応援。さらに城の入口で、友人に「ここで待つて

いる」と告げた木島に、このオバチャンの主人も「If you go, you will be happy, and we also be happy (君が行ったら幸せになるし、私たちも幸せだ)」と言いつ放った。城の見学は30人のツアー。居合わせた人たちは車イスに乗った木島を交代で運んだ。楽しいことは皆で共有する。宗教、年齢、人種を超えた一体感をノイシュバンシュタイン城で味わった。これがその後の旅の原点になった。

木島は、「木島英登バリアフリー研究所」代表としてバリアフリーのコンサルタンツト、講演・研修、執筆で生活する。年間2カ月、海外旅行する生活を21年間続けてきた。ロッキー山脈を越え、北極のオーロラを見た。これは6月公開の電子書籍「秘境の車イス」(<http://www.kijikiji.com/book/index.htm>)に詳しい。海外に行くほどに世界と日本のバリアフリーの違いが身にしみる。日本のトイレの便座は低い。便座を高くすれば高齢者でもすつと立ち上がれる。欧米のホテルのシャワー室には障害者向けのイスがある。中には背が倒れて車イスから乗り移りやすい優れたものもある。日本はバスタブ中心でイス一つない。

今、木島が力を入れるのは外国からの観光客に向けた日本のバリアフリー事情

の多言語発信。東京の地下鉄駅も全てがバリアフリーではない。ホテルを予約するにもこの情報は重要。世界の人が日本に来る、障害のある人も高齢者も来ることで日本への判断基準が変わる。そのような積み重ねが日本の、世界の平和を支えると信じている。



ノンフィクション作家  
バリアフリーコンサルタント  
車いすの旅人

木島 英登

KIJIMA Hideto

1973年、大阪府豊中市生まれ。神戸大学発達科学部を経て97年、電通関西支社。7年後にフリーとなり、現在は木島英登バリアフリー研究所代表。NPO法人 Japan Accessible Tourism Centerを運営。世界138カ国に旅している。



ウガンダの奥地ビッグミー族



パキスタンにて



大好きなインド



フランス・アルプスでスキー

神戸大学 in 中津

## 中津の偉人「水島鍊也先生 生誕150年 記念講演会」



神戸大学の礎、神戸高等商業学校の初代校長を務めた水島鍊也先生（1864年～1928年）の生誕150年を記念して5月17日（土）、水島先生生誕の地である大分県中津市のグランプラザ中津ホテルで「神戸大学in中津 中津の偉人水島鍊也先生生誕150年記念講演会」（神戸大学主催、神戸大学六甲台後援会、凌霜会后援）が開かれました。

水島先生は1864年、豊前（ぶぜん）中津藩士・水島家の長男として、大分県中津市金谷（かなや）で誕生。1887年に東京商業学校（後の東京商業高等学校）を卒業して、教員、校長心得、民間会社勤務を経て、新設の神戸高等商業学校校長に就任しました。東京高等商業学校（現・一橋大学）が学理を中心にした教育を行ったのに対して、実践を重視して実務中心の商業学校卒業生にも門戸を開放するなどして、国際的商業人の育成

に注力し、22年の長きにわたって校長を務めました。

記念講演会では福田秀樹学長が「世界に向けた広い視野を重視する水島校長の教育方針が、今の神戸大学の学風でもある開放的で国際性に富む固有の文化の下『真摯・自由・協同』の精神を発揮することにつながってきています。実務教育を重視した水島校長の考えは『学理と実際の調和』という理念となって受け継がれました。学理のみならず実践を重視された水島先生の慧眼に今、改めて敬服します」と挨拶しました。

新貝正勝・中津市長からの祝辞に続く

て、水島鍊也先生生誕150年記念事業実行委員会の高崎正弘委員長が新貝市長に水島公園整備費用の寄附目録を贈呈しました。

井上典之理事・副学長が神戸大学の現況を説明。新野幸次郎・神戸大学名誉教授・元学長が「中津の偉人 水島先生と神戸大学」という演題で講演。九州一円だけでなく総勢200人を超える参加者が、新野元学長が紹介した水島先生の逸話などに聞き入りました。

ホテル内で、神戸大学進学相談会も同時に開催し高校生ら50人が詰めかける盛況でした。



### 池上淑子氏を悼んで

文学部同窓会「文窓」会長、池上淑子氏が2月6日、享年69歳で急逝されました。彼女は女性として初めての神戸大学友会副会長でもありました。

先日文窓会主催で開催した「偲ぶ会」でお兄様はおっしゃいました。「淑子には神戸が合っていたようだ。神戸に帰った途端、生き生きと輝きだした」

その通り子育ても一段落つくくと馬術部に入り、半分の年齢の若者達と早朝から練習、家に帰りご主人の体を気遣い手作り弁当、そして家庭裁判所の調停委員。その忙しさの中で文学部同窓会、学友会の仕事を引き受け、文窓会会長の職に就かれた。彼女は神戸の中でも特に神戸大学が大好きだったのです。

同窓会長としては、文学部の校舎改築、オックスフォード留学生受け入れ援助等、同窓会の存在を高めてくれました。より文窓の活動がしやすくなるように同窓会事務局も確保してくれました。私たち文窓の役員は彼女に任せているところ大でありました。今後は彼女の熱意を受け継いで発展させていかなければなりません。

彼女のご主人の告別式での言葉通り「生き通しに生きた人生」であったと思います。早世が惜しまれてなりません。

ご冥福をお祈り  
申しあげます。

（文窓会会長代行  
武藤美也子）



## 医学部附属地域医療活性化センターで開所式

低侵襲総合診療棟も完成、高度最新医療に対応

神戸大学医学部附属地域医療活性化センター（センター長 杉村和朗神戸大学大学院医学研究科教授、写真上）が医学部西側（神戸市兵庫区荒田町2-1-5）にこのほど完成し、4月18日に開所記念式典を催しました。

地域医療活性化センターは、医師等の医療従事者の地域による偏在の解消が緊急の課題になっている中、神戸大学と兵庫県とが連携して、医師をはじめとした、医療を担う人材に対して、卒前から卒後に至る一貫した教育研修を実施することにより、県内における地域医療に不可欠な医療従事者の養成を図り、地域医療を活性化することを目的に建設されました。

完成したセンターは、鉄骨地上3階・地下1階で延べ3,300平方メートル。地下1階に先端外科医療・内視鏡トレーニングセンター、臨床基本技術トレーニングセンター、1階に本センター受付及び事務室、2階に研修室、3階に病理診断技術トレーニングセンター、遠隔画像診断支援センターなどが新設されています。県内の医療機関に勤務する医師、メディカルスタッフのスキルアップに貢献する教育プログラムを展開していく予定です。

また医学部附属病院低侵襲総合診療棟（写真下）が2014年1月に竣工し、医療整備を順次行い、3月末から診療を開始しています。新診療棟は、5階に病理部、4階に周産母子センター、3階に手術部、2階に光学医療診療部、腫瘍センター、麻酔科・ペインクリニック、1階及び地下1階には放射線部を設置しています。

手術部の各手術室は、従来に比べて広くなり、医療用ガス及び電源、麻酔器並びにモニターなどが吊り式となったことから、手術時における機能性及び安全

性が向上し、低侵襲であるロボット手術や内視鏡手術などの高度最新医療に対応しやすくなりました。さらに、手術部と病理部を上下階で直結することにより、手術中の病理診断の連携もスムーズになりました。今後は術中MRI診断及び術中VR（画像支援治療）もできるようになります。

周産母子センターは、既存施設の改修によりMFCU（母体胎児集中治療室）を6床設け、重症の母体を受け入れる体制を整えることで、総合周産期母子医療センターとして拡充整備される計画になっています。

他にも、光学医療診療部では最新の内視鏡機器を備え、診断・治療スペースが拡充されたことにより、より多くの患者さんに充実した診療を提供できる体制になりました。また、従前の外来化学療法室が通院治療室及び緩和ケア外来などが一体化して腫瘍センターとなり、麻酔科・ペインクリニック科と隣接して効果的な診療を行う体制になっております。

さらに、放射線部も拡充され、最新の放射線治療装置であるリニアックが2台設置され、MRI室及びVR室も増設されました。



## 第3回シンポジウム「神戸大学のミリオク」

9月7日に東京・お台場で開催

2014年9月7日（日）13時から、東京・お台場の日本科学未来館でシンポジウム「神戸大学のミリオク Make a Difference - Kobe University」を開催します。関東地区で神戸大学の特長を紹介する企画で、今年で3回目。コンセプトは「五感で感じる神戸大学のミリオク」です。

神戸大学の先生方が講演。まず、伊藤光宏教授（保健学研究科保健学専攻）が『遺伝情報の解読の仕組みと病気のテーマで講演。次いで樋口大祐准教授（人文学研究科文化構造専攻）が『世界』を映した海港市。最後に、松山秀人教授（工学研究科応用化学専攻）が『地球規模の環境問題の解決に貢献する膜技術』のテーマで講演します。最先端研究を分かりやすくお話しします。

その後は、サブ会場で神大農場フルーツの食べ比べ、レスキューロボコン出場「六甲おろしチーム」による救助実演、神戸大学研究最前線の展示、神戸

大学のミリオク・クイズ大会を開催。入試担当者や理事がそろって相談コーナーもあります。

シンポジウムの最新情報は随時、本学サイトや「Twitter」にアップします。お問い合わせ・申し込みは、神戸大学広報室（TEL078・8003・6678 FAX078・8003・5086）



昨年11月、東京・秋葉原で行われた第2回シンポジウム

- 第3回シンポジウム「神戸大学のミリオク」  
[http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/event/e2014\\_09\\_07\\_01.html](http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/event/e2014_09_07_01.html)
- 神戸大学広報室 Twitter  
[https://twitter.com/KobeU\\_PR](https://twitter.com/KobeU_PR)

## UI (University Identity) 推進、ロゴタイプを用意

神戸大学は2014年4月1日から「ロゴマーク等」を整備し、UI（ユニバーシティ・アイデンティティ）活動の推進、世界トップクラスの研究・教育大学のブランディングに取り組んでいます。

UIは大学のアイデンティティを確立し、それを学内外に表明することで、社会における役割や個性を明確にし、正しい認知を促し、良いイメージを訴求するブランディング活動のひとつです。大学の運営方針や戦略といった目に見えない要素とロゴマーク等の視覚的な要素から成り立っています。

企業が1990年代から取り組んでいるCI（コーポレート・アイデンティティ）の大学版ととらえることができ、CIと同様に社会における大学イメージの構築を目指します。

従来のロゴマークに加え、ロゴタイプを作成しました。同時に、使用マニュアルを整備し、正しい使い方を通じて学内ではUIの推進を、学外には神戸大学ブランドの向上に貢献します。

使用の際は取扱規則、使用マニュアルに従い、事前申請、届出をお願いします。



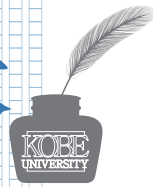
神戸大学



KOBE UNIVERSITY

# 神大人の本

2013.12 ▶ 2014.06



神戸大学のスタッフが著者、編者、監修者、翻訳者で、神戸大学ホームページ「神大人の本」コーナーに掲載された新刊を紹介します。価格は税込み(8%)です。



## 比較福祉国家

理論・計量・各国事例  
鎮目真人・近藤正基 編著  
ミネルヴァ書房  
2013年12月  
3,780円



## 学生の学力と高等教育の質保証 II

山内乾史・原清治 編著  
学文社  
2013年12月  
2,268円



## 牛と農村の近代史

家畜預託慣行の研究  
板垣貴志 著  
思文閣  
2014年1月  
5,184円



## ガプロボ滑稽談

中村千春 編・訳  
東京図書出版  
2014年3月  
1,188円



## 有期労働契約の法理と政策

法と経済・比較法の知見をいかして  
大内伸哉 編  
弘文堂  
2014年3月  
4,320円



## マンガで読む震災とアスベスト

神戸大学倫理創成プロジェクト  
京都精華大学機能マンガ研究プロジェクト  
桜風舎  
2014年3月  
非売品



## ポーポキ、元気って、なに色?

ポーポキのピース・ブック3  
ロニー・アレキサンダー 文・絵  
エピック  
2014年3月  
1,620円



## 現代人的資源管理

グローバル市場主義と日本型システム  
上林憲雄・平野光俊・森田雅也 編著  
中央経済社  
2014年3月  
3,672円



## International Liability Regime for Biodiversity Damage

The Nagoya-Kuala Lumpur Supplementary Protocol  
Edited by Akiho Shibata  
Routledge  
2014年3月  
£ 85.00



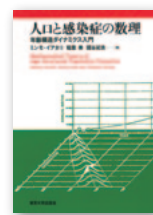
## エコノリーガル・スタディーズのすすめ

社会を見通す法学と経済学の複眼思考  
柳川隆・高橋裕・大内伸哉 編  
有斐閣  
2014年3月  
2,916円



## つながれない社会

日比野愛子・渡部幹・石井敬子 著  
ナカニシヤ出版  
2014年4月  
1,944円



## 人口と感染症の数理

年齢構造ダイナミクス入門  
ミンモイアネリ・稲葉寿・國谷紀良 著  
東京大学出版会  
2014年5月  
4,104円



## 新版 グローバリゼーション国際関係論

坂井一成 編  
芦書房  
2014年5月  
2,916円



## 江戸文学を選び直す

現代語訳付き名文案内  
井上泰至・田中康二 編  
笠間書院  
2014年6月  
1,944円

### 読者の皆様へアンケートのお願い

神戸大学広報誌『風』3号をお読みになったの感想をお聞かせください。今後の誌面作りの参考にさせていただきます。

1.どの記事に関心を持たれましたか 2.その記事についてどのような感想を持たれましたか 3.今後読みたい記事 4.その他何でもご感想を

アンケートの回答は神戸大学広報室のメールアドレスをお願いします。お仕事、年齢を書き添えていただくと幸いです。

✉ [ppr-kouhousitsu@office.kobe-u.ac.jp](mailto:ppr-kouhousitsu@office.kobe-u.ac.jp)

WEBフォームもあります。 <http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-relations/magazine/kaze/enquete.html>

風3号をお届けします。新しい雑誌でも号を重ねることにマンネリ化が進みます。今の「風」に足りないものは何か。広報室で議論の末に、女性対談のページの代わりに、女子学生たちのロールモデルになる先輩の紹介と、特徴ある研究を紹介するページを新設しました。風はこれからも変わり続けます。神戸から新しい風を起こすために。(広報室)



風 Jul.2014  
Vol.03

発行日/2014年7月

発行・編集/神戸大学 広報室

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

TEL/078-80335083

FAX/078-80335088

アートディレクション・デザイン/（有）テイタリエイション

印刷/能登印刷(株)

©2014 神戸大学

※本誌に掲載されている記事、写真、図表の無断転載を禁じます。